

震災復興祈念公園一部開園 見学会（町民関係者有志）レポート

日時：2020年 2月2日 pm1:30~4:30

呼びかけ：志津川地区まちづくり協議会会長 及川渉

協力：復興みなさん会（中日新聞の助成金を活用して諸経費を担当）

場所：祈念公園～上山八幡宮社務所

参加者：及川渉（まち協）太齋彰浩（サスティナビリティセンター）山内利也（志高pta会長、入谷）齋藤明（教育委員会教育長）佐藤太一（まち協、森林組合）畠山幸男（復興みなさん会、歌津）高橋志保（子育てサークル mokomoko 代表、歌津）佐野薫（まちおこし協力隊）工藤（まち協、復興みなさん会※記録）

※関係者マップから地区ごとに声掛けをした

内容：公園の一部開園エリアを見学し、状況を確認、その後意見交換をした

感想

- ・風当たりが強い・立派な公園→管理が大変そう
- ・海が見えるのはとても良い。
- ・築山の法面がススキなのは、夏、秋は良いが、冬を想像すると心が荒む・・・
- ・さんさん商店街との連携が期待できる（食、スポーツ関連、ボールを借りることができたり出来ると憩うこともできるのでは？）
- ・マラソンコースによい（志津川高校生のマラソン大会コースにぜひ使ってほしい）
- ・樹種を見ると年間の彩はありそう。
- ・語り部コースや、ツアーの導入によい。
- ・想像より木々がこんもりしそう（みらいの森）
- ・北風をうけるタブの木は大丈夫？
- ・きれいだが、木々の植樹予定数は多すぎでは？
（段階を経て、様子を見ながら徐々に植えるなど）
⇒まずはタブ等を公募で植樹（町の予算で購入するもの）
寄付される椿は別途、時機を見ながら植えこんでゆくなど、時間差があっても）
- ・高校生の居場所が無いので、屋根のある場所を増やしてあげたい
- ・歌津からは遠い。どう利用していいのかわからない。関われない。
- ・志津川以外の地区民の理解は今一つ[今は壁がある] 壁=誇り
→南三陸をみんなで支える、というイメージの共有が必要



課題と工夫



・築山の上の防災機能を知るために、**防災訓練**をしたい

→万が一、築山に避難しても、今のままでは防災機能を使えない…

・完成する前から、学校単位での植樹などで子供たちと一緒に作っていききたい ((教育長)

・子供たちの**防災訓練**、**防災教育の拠点**として、遠足などと組み合わせながら構築し

てゆきたい。近くにできる**伝承館とセット**で考えてゆくべきところ (教育長)

・**掃除、草刈り**に関しては、利用者の条件としてしまう。(グランドゴルフチームや、単発の利用者イベント時など) また、町内の業者の奉仕活動などの協力を得る仕掛けが必要。

→町として、入札の**点数制度に活かす**などの発信をしてもらえたら…

・**枯れ葉を利用する**という想像も→広葉樹も多いので、枯れ葉の処理をどうするか

→良い肥料や、腐葉土となるので、どこかに仮置きをして生かす手立てを考える

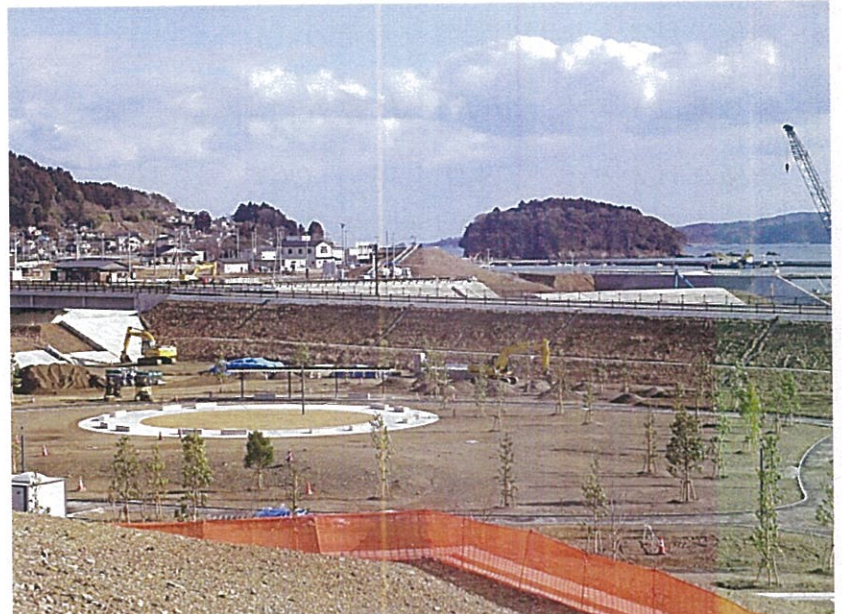
・こどものために、自然的な遊具 (丸太や小さな築山) があるエリアを手作りしてゆく
余白はある? 公園エリア内になくても、周辺の緑地ゾーンに可能性があれば…

※バスケットコートや遊具などでも遊びたいが…⇒公園の目的に配慮が必要。

⇒松原公園が子供の遊び場になっているので、それぞれの公園の目的をみながら使い分けを。



雨で崩れている場所も…
今後も台風後などが心配…



想像より早く森が出来そう (→ゆっくり隙間を埋めたい)

感想と課題から導き出されたこと

今後、公園を育ててゆく会（仮称）の準備会をするなら…

全体が良くなる為に、5つのフックを掲げて呼びかけをする

（良くなるとは？→町の税収を助ける、維持管理できる、利用者にメリットがある）

◎公園を育ててゆくための会に掲げる5つのフック案◎

- 1（交流）語り部やツアーの導入ゾーンとして考えよう
- 2（憩い）ちいさな子供や高校生の拠り所としてケアしよう
- 3（管理）町内業者の奉仕活動を点数制にして展開しよう
- 4（再利用）枯れ葉などを腐葉土や肥料として活用しよう
- 5（学び）防災学習の拠点として活用しよう



今後の展開（案）

公式の場である、志津川地区まちづくり協議会（役員会）を通して、町に、以上の5つのフックを盛り込んだ提言書をまとめ、提言。自由度（任せてもらえるか）を確認しながら、まずは「準備会」を立ち上げ、定期的に5つのフックをもとに活動者を呼びかけ話し合っゆく。さらに必要なフックがあれば追加してゆく。